

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(令和 6 年 11 月)

～訪日客要因や気温の低下による季節需要の増加で、現状判断は改善～

- 景気ウォッチャー調査・11 月調査の近畿地域の結果は、現状判断が 49.9 と前月比で 2 か月連続の上昇（+1.1 ポイント）となった。ただ、好不調の判断の目安となる 50 は 8 か月連続で下回っている。一方、先行き判断も 50.6 と 2 か月連続の上昇（+1.1 ポイント）となった。
- 足元の景気については、足元の円安基調を背景に、インバウンド消費が勢いを取り戻している。ただし、今年の夏頃までの好調時に比べると減速感に残っており、百貨店やホテルからも、インバウンド売上の鈍化に関する声が聞かれる。
- 加えて、11 月に入って気温の低下がようやく進んだことで、秋冬商材の動きが増えている。基本的にはこれまでの遅れを取り戻す動きであり、2～3 か月単位でみれば需要が増えたとは判断しにくい部分はあるものの、関連業界からは明るい声が挙がっている。
- 一方、企業を取り巻くコストの上昇傾向が続く中、物価の上昇による影響は依然として厳しい。客足の減少に加え、節約志向を背景とした購入量の減少などが、引き続き目立っている。
- 景気の先行きについては、インバウンドの増加への期待に加え、クリスマス・年末商戦の盛り上がりへの期待が非常に大きい。ふだんの買物では節約傾向が目立つ一方、特別な時には支出を増やす「メリハリ消費」の傾向を背景に、年間の最大イベントであるクリスマス・年末商戦に向けて、幅広い業種から期待の声が上がっている。ただし、初売り後の 1 月中旬からの反動減に対する警戒も、それと同時に高まっている。
- また、大阪・関西万博の開催が近付き、徐々に期待感が高まっている。特徴的なのは派遣業界を中心とした雇用関連からの声であり、警備や英会話関連といった需要の増加に期待が集まっている。
- 一方、物価やコストの上昇に対する警戒感も、依然として強い。消費者の節約志向が強まる中、価格転嫁が徐々に困難となっており、スーパーやレストランのほか、製造業などの企業関連でも厳しい声が聞かれる。

「気温要因」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	やや良くなっている	百貨店（販売推進担当）	・ 秋も深まり、衣料品の実需期となっている。客単価の上昇と、購買率の低下傾向は変わらないが、これまでの不振を少しカバーする形となっている。
		百貨店（マネージャー）	・ 物価の上昇という要因もあるが、国内の中間層による消費が活発で、3 か月前と比べて売上は 5.4% 改善している。気温の低下により、付加価値の高いファッション商材や、食に特化した催事、総菜、おせちなどの受注が好調に推移した。また、富裕層の動きでは、特選品や美術品、時計がクリスマス商戦を控えて好調に推移するなど、国内市場が良くなっている。インバウンド消費は 3 か月前と同様に、客単価は低下しているが、来客数が増えており、売上の前年比は 30% 増を維持している。
		百貨店（売場マネージャー）	・ 気温の変化とともに、婦人服や紳士服のファッション関係の店頭売上が、3 か月前よりも 5% 程度増えている。外商売上も、ラグジュアリー関連や金製品が好調に推移し、3 か月前よりも約 20% 増えている。さらに、来客数も増加傾向にある。
		衣料品専門店（店長）	・ 11 月中旬頃から、それまでの暑さから一気に冬らしくなり、秋冬商材の販売が加速した。前年と比べて単価は少し低いものの、販売数は前年比で 130% 超と大幅に増えている。

家計動向関連	変わらない	一般小売店〔衣服〕（経営者）	・販売量が前年と比べて落ちている。11月に入っても暖かい日が続いたことが要因であるほか、物価の上昇により、必需品ではない衣料品には買い控えもみられる。
		百貨店（企画担当）	・10月は気温が高く、衣料品を中心とした季節商材が苦戦したが、11月に入って一気に気温が下がったため、冬物衣料が動き、売上に貢献している。
		百貨店（広報担当）	・8月は厳しい暑さが続き、秋物ファッションへのシフトが遅れた。11月も気温の低下が遅れたことで、秋物ファッションの本格稼働時期が後ろにずれている。
		百貨店（外商担当）	・インバウンド売上の伸びが鈍化している。気温が下がらないため、冬物商材の売上も芳しくない。海外の高級ブランド品も商品がそろわず、それほど売上は伸びていない。
		百貨店（商品担当）	・気温の影響もあり、冬物商材の動きが少し鈍い。気温が低い日は冬物商材の動きも増えるが、気温の高い日も多く、一進一退の動きとなっている。
		百貨店（販促担当）	・今月はようやく気温が低下し、秋冬商材も動き出したが、気温が高かった前月の低迷分を補うほどの活発な動きではない。気温も低下してきたとはいえ、高い日もあるなど、防寒意識は十分に高まっていない。一方、インバウンドは順調に動いており、売上全体の底上げに寄与している。
		百貨店（マネージャー）	・野菜価格の高騰による影響もあるが、食料品は農産物や精肉を扱う道の駅が近隣にオープンしたほか、競合スーパーの食品フロアのリニューアルもあって苦戦している。また、お歳暮ギフト関連も苦戦しているが、急激な冷え込みで衣料品関連が好調に推移しており、全体としてはほぼ想定どおりの売上となっている。
		スーパー（経理担当）	・ブラックフライデーは気温の低下もあって比較的好調となるなど、生活にも根付いてきたようである。このままクリスマス、年末商戦にも期待したいが、物価の上昇による節約意識の高まりもあり、メリハリのある消費行動になると予想される。
		スーパー（企画）	・気温の低下もあり、季節商材が売れるようになってきている。
		コンビニ（店員）	・一気に寒くなり、温かい商品が好調に売れ出したが、売上に大きな変化はない。
		衣料品専門店（経営者）	・来客数は少ないながらも、寒くなったため、冬物商材を求めての来店がみられる。ただし、財布のひもが非常に固い。
		その他専門店〔医薬品〕（管理担当）	・気温の低下に伴い、これまで低調であった医薬品や衛生用品の動きは上向いているほか、化粧品や美容関連も順調に推移している。ただ、食品や日用雑貨などの生活必需品は横ばいとなり、売上全体としても低調な水準となった。3か月前と比べて来客数に大きな変化はなく、客単価は上昇しているが、買上点数が若干減少している。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（総括）	・気温の低下で衣料品が動いているが、クリスマス関連やお歳暮、おせちといった季節商材の動きが戻らない。インバウンドの動きもそれほどなく、大きな変化はないため、売上はほぼ前年並みとなっている。
	やや悪くなっている	百貨店（サービス担当）	・新規の催事やポイントアップイベントの積極展開、新ショップのオープンなどで、来客数は前年を上回ったが、売上は約3%減となった。日中の寒暖の差が激しいため、ストールや帽子などの婦人雑貨のほか、婦人服は好調に推移している。
		百貨店（商品担当）	・気温が高めに推移したため、婦人、紳士、子供の各部門の冬物衣料が不調となり、雑貨だけが少し好調であった。食関連が中心の物産展は前年比で増収となり、その影響で来客数も微増となったが、買い回りが少なく売上の減少を招いている。
		スーパー（店員）	・この時期では今までにないほど野菜の値段が上がり、売行きに響いている。その代わりにカット野菜はよく売れた。寒くならず暑い日が続いたため、割と小さめの野菜が多い。
		家電量販店（経営者）	・暖冬の影響により、給湯器などの動きが悪い。
		家電量販店（人事担当）	・温暖化の影響で気温が下がらず、暖房機器の販売が伸び悩んでいる。また、食材や日用品価格の上昇により、調理家電の販売も低迷している。
		その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・温暖化の影響で、紅葉の時期が例年よりも遅く、11月の行楽客の来客数に影響が出ている。
企業	変わらない	その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・冬らしい気候となり、冬物商材の売行きが徐々に伸びている。その一方で、食材価格の高騰による影響か、スーパーの食料品の販売が目立った伸びはなく、衣料品や雑貨の販売が伸びる形となっている。

「クリスマス・年末商戦」関連のコメント（先行き判断）

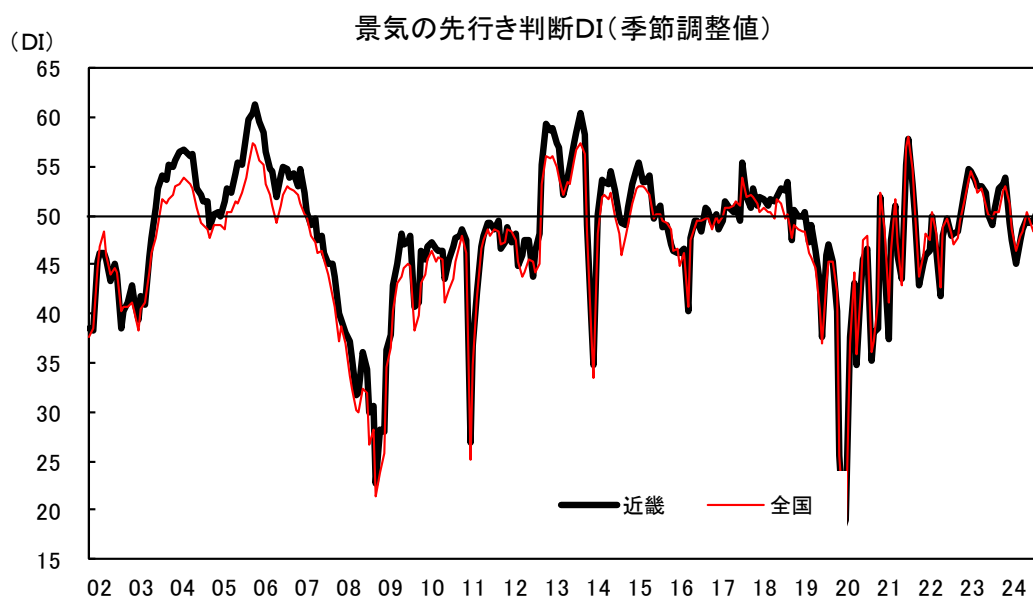
家計動向関連	良くなる	家電量販店（人事担当）	・ようやく例年並みの気温になるとの予測から、暖房機器の販売の回復が見込まれる。また、各業界はブラックフライデーや年末セールなどで、大幅に価格を下げる傾向にあるため、消費者の財布のひもが緩むことを期待している。
	やや良くなる	百貨店（サービス担当）	・クリスマス、年末年始商戦のスタートで、来客数やインバウンド観光客が増える期間となるため、売上の拡大に期待している。
		百貨店（売場マネージャー）	・今月から気温が下がって例年並みとなり、衣料品関係が動き出している。特に、婦人服関係が良くなっているほか、インバウンドの観光客も増えており、ラグジュアリー関連を中心に売上が期待できる。また、クリスマスや年末年始の動きにも期待している。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（店員）	・ボーナス商戦や年末年始商戦もあり、化粧品の予約数が伸びている。急激な景気の改善は難しいものの、個人消費は緩やかな増加が予想される。
	変わらない	百貨店（マネージャー）	・年末年始を控えて、全体的には今月と同様の推移が予想される。国内の中間層は選択消費が続くなか、ハレの日の消費ではコストパフォーマンスの良い商品の動きが期待できる。また、富裕層の消費でも、限定品などのギフト関連が堅調に推移しそうである。インバウンドも地域的にみて、まだ好調に推移することが予想される。
		スーパー（店長）	・年末年始商戦を迎えるに当たり、生活防衛の動きに変化はないと考えられる。今後は景気が悪くなることはないが、節約志向が続くと予想される。

家計動向関連	変わらない	スーパー（経理担当）	・最大の商戦である年末商戦を迎え、今年は長期の連休となるため、遠方への外出や旅行に需要がシフトする。それに伴い、食費の節約や来客数の減少が懸念される。ただし、ハレの日の消費によって景気全体が活気付けば、消費の勢いが増すという期待感もある。
		コンビニ（経営者）	・年末の繁盛期に向けて、忙しくなることを期待している。
		その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・クリスマスなどの年末に向けたプレゼント商戦も、本物志向の客が減っているため、貴金属や宝飾品よりもイミテーションの需要が増える。また、高い予算であれば、ハイブランドの小物類に需要が流れる。
		その他専門店〔医薬品〕（管理担当）	・気温の低下により、カイロなどの冬物商材にも動きがみられるほか、風邪薬や衛生用品の販売も緩やかに上向いている。また、化粧品やスキンケア用品も順調に動いているが、食品や生活必需品は値上げの影響で、客単価は上昇しているものの、買上点数は減少している。年末商戦に向けて対策が必要となるなか、大きな上昇要因は見当たらない。
		一般レストラン（店主）	・年末年始には客がやや動くものの、例年どおり、年明けから2月は余り期待できない。
		競艇場（職員）	・11月のSG、G1競走の売上はやや減少傾向がみられたが、全体的に大きな変動はない。年末のビッグレースを控え、インターネット投票を中心に前年並みの売上が期待できる。
	やや悪くなる	一般小売店〔花〕（経営者）	・クリスマスや年末商戦の後、売上が落ち込むほか、物価の上昇によるし好品の買い控えが増える。
		百貨店（商品担当）	・海外の政治情勢の影響もあり、株価や為替の動きが不安定である。昨今のインバウンドの動きが今後も見込めるとは限らず、衣料品や食品の販売促進に注力しているが、効果は薄い。さらに、小売業では新規販売員の募集にも人が集まらず、年末年始は欠員気味であるため、売上に影響が出る可能性がある。
		家電量販店（店員）	・年末に向けて、来客数の増加が予想されるものの、購入にはかなりの時間を要するため、前年以上の実績は難しい。
	悪くなる	一般レストラン（経営者）	・物価の上昇や年末年始の出費により、外食の回数は減少する。
企業関連	なる	化学工業（企画担当）	・年末年始の食品の最需要期に入る。
	や	食料品製造業（営業担当）	・年末年始に向けて、消費は少し増える。さらに、年取の税制上の壁が今後どうなるかによって、消費の動きが変わってくる。
	なる		
雇用	変わらない	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・年末年始に向けた、関西の地元企業からの新聞広告やデジタル広告への予算はほぼ前年並みのため、売上はこの3か月とほぼ変わらないと予想している。

「大阪・関西万博」関連のコメント（先行き判断）

家計動向関連	やや良くなる	都市型ホテル（総務担当）	・3か月後は大阪・関西万博の開幕まで約1か月という時期になる。施設の完成に伴う視察や関係者の準備など、いわゆる万博需要が始まるため、特に国内からの集客が期待できる。
		タクシー運転手	・大阪・関西万博を間近に控え、関連の業者が忙しくなるなど、少し動きが出てきている。
	変わらない	その他小売〔ショッピングセンター〕（総括）	・先行きの好材料が見当たらず、物価の上昇といったマイナス材料が多いため、慎重な消費行動になっている。大阪・関西万博などのイベントも、宣伝は盛り上がりつつあるが、消費を促す材料に乏しい。
企業関連	変わらない	金融業（営業担当）	・大阪・関西万博の開催まで約4か月となったが、大きな案件の話もなく、特需が発生しているような話もないため、特に変化はない。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・来春の大手メーカーによる値上げ宣言が出始めているため、物価の上昇による消費マインドの低下は続く。一方、大阪・関西万博の開催を控え、開催気運が醸成されつつあるため、プラスとマイナスの影響がせめぎ合う形となる。
雇用関連	やや良くなる	人材派遣会社（営業担当）	・大阪・関西万博に伴う需要に期待したい。直近では英会話関連の求人で、求職者の動きがみられる。
		人材派遣会社（管理担当）	・大阪・関西万博の開催が近づき、求人数は増加するものの、マッチする人材が今後ともなかなか見当たらないと予想される。
	変わらない	民間職業紹介機関（職員）	・このところは、建設業や警備業の中小事業者からの求人が増加している。いずれも人手不足感が強いが、従業員の処遇改善が遅れている事業者が多く、人材の確保に苦慮している。来年の大阪・関西万博の開催に向けて、特に警備業の求人が増えそうである。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		22年		23年		24年										
		11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1
現状判断	近畿	51.6	52.3	51.5	52.9	53.7	54.2	53.8	53.1	53.4	53.2	52.6	51.1	52.8	53.0	50.1
	(全国)	50.6	49.8	49.2	52.1	52.6	53.3	53.5	53.2	53.4	53.5	50.7	50.7	50.8	51.8	50.2
先行き判断	近畿	48.1	48.4	49.7	52.3	54.8	54.5	53.7	53.0	53.0	52.4	50.2	49.1	50.6	52.8	53.1
	(全国)	47.0	47.8	49.5	51.4	53.6	54.6	53.5	52.4	52.8	51.1	50.1	49.8	50.3	50.4	52.5

※季節調整値